



勉強のすすめ

～1 + 1 = 2だが?～

校長 澤田 純一

新年、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。
今年も元旦は好天でした。何時ものごとく朝5時に起床し、相も変わらずプルト(犬)とともに足任せに散歩することから1年が始まりました。散歩コースはいくつかあるのですが、その1つに富士山を見晴らせるロケーションコースがあります。冷感極まる大気の中、東から私たちに光を与え万物をはぐくむ太陽そして、西に霊峰富士を仰ぎ畏敬の念を抱きつつ、しばし心を落ち着け静観し、今年の思いを誓うことが元旦のルーティンとなっています。皆さんはいかが過ごしましたか？

さて、「一年の計は元旦にあり」という諺があります。これは、何事もまず計画を立てることが大事であることを表しています。私は、30年間、心に刻む言葉は変わりません。それは、「生徒とともに学ぶ教師」であることです。結果、「生徒とともに成長する教師」ということになります。私がかつて若かりし頃、先輩から告げられたことがありました。「澤田君、今日から君は先生と呼ばれる。それは、先に生まれたからではない。先に生きるからだ。言行不一致にならぬこと！」と。私の専門は政治・経済です。大学で学んだことが基礎になっていることは間違いないのですが、35年前とは時世が大きく変化しています。もはや、当時の知識で通用するはずがないのです。したがって、毎日勉強することとなります。ここ数年は貨幣循環理論、現代貨幣理論、経済発展と地球環境などと、それに関連する歴史や地政学、社会学を学んでいます。そのような社会情勢全般(マクロ)を学び、教育(ミクロ)と関連させています。そして、何より新しく物事を知ること、発見すること、勉強することが楽しいのです。

「なぜ、勉強をしなくてはいけないのですか？」この質問は、私の教職30年間で最も多いものです。その質問に対し、「勉強はしなくてはいけないものではない。勉強とは、したくなるものだ。」と、答えることにしています。皆さんは1 + 1 = 2であることを学校で学びます。しかし、社会に出ると、すなわち逆、2 = ○ + △という無限の解から答えを導き出すことが求められます。「鉄は熱いうちに打て」と言われますが、学問を追求することは若い時のみならず、一生をかけて取り組むものと思っています。

大切なことは、自分の人生を生きること。他人と比較して生きることほど愚かなことはありません。そして、私たちに与えられた時間は、常に成長するために与えられているのです。今年も互いに大きく成長をとげるため、ひたすら初心を貫いていきましょう。

今日の話はこれでおしまい。寒い日が続きますが体調に気をつけて過ごしましょうね。皆さんにとって良い1年でありますように。✂